

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(74)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(74)—

1. 始めに

前報(73)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

今回は、試みに、Crystal E に 10000F の電解コンデンサーを連結しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も、弦と管楽器の協奏交響曲です。

ドイツグラモフォン 20MG0388

モーツアルト

ヴァイオリン、ヴィオラ、オーケストラの協奏交響曲 変ホ長調

オーボエ、クラリネット、ホルン、ファゴットと管弦楽の協奏交響曲

変ホ長調

トーマス・ブランディス (ヴァイオリン)

ジュスト・カッポーネ (ヴィオラ)

カール・シュタインヌ (オーボエ)

カール・ライスター (クラリネット)

ゲルト・ザイフェルト (ホルン)

ギュンター・ピースク (ファゴット)

カール・ベーム指揮ベルリンフィル

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

ドイツグラモフォン盤ということで、TELDEC、逆相、第4時定数 High で聴いて

いきます。

ヴァイオリンとヴィオラの協奏交響曲では、ヴァイオリンとヴィオラのソリストは名前を聞いたことがありませんが、細身に繊細な表現で、緻密で構成のしっかりしたベーム指揮ベルリンフィルが、これを支えています。

オーボエ、クラリネット、ホルン、ファゴットの協奏交響曲は初めて聴くものですが、やはり緻密で構成のしっかりしたベーム指揮ベルリンフィルの前面でオーボエ、クラリネット、ホルン、ファゴットの4者が明るく伸び伸びと演奏しています。

3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal Eの交換などの総合的な効果として、ヴァイオリン、ヴィオラ、オーボエ、クラリネット、ホルン、ファゴットのソリストとベーム指揮ベルリンフィルの演奏の様子が的確に把握できました。

以上